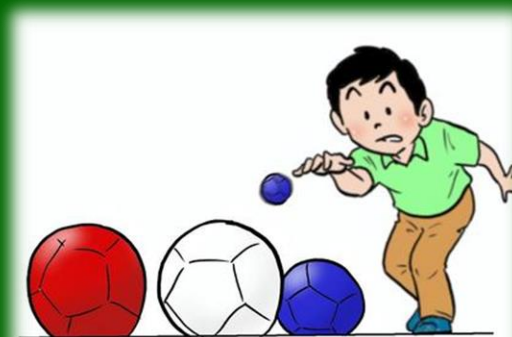


鯨城会16区フェスティバルに向けてボッチャ担当スタッフ講習模様

令和5年8月7日



※1988の韓国ソウルから公式種目

ボッチャはヨーロッパ生まれのパラリンピック正式種目です。

(男女の区別はなく、障がいの程度でクラス分けをして順位を競います。) Bel ~ Bc 4 級 5人

・上から投げて、下から投げて、あるいは蹴っても良い。

障害者ボッチャ

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

・投げる事が出来なければ、勾配具(ランプ)と呼ばれる滑り台を使っても良い。

障がいによりボールを投げる事が出来なくても勾配具(ランプ)を使い参加できます。

・すべての垣根を越えて、誰でも参加出来るスポーツです。

経験がなくても、だれでも参加できます。

ボッチャは老若男女、障がいのあるなしにかかわらず全ての人と一緒に、そして

競え合えるスポーツです。

※ボッチャとは、イタリア語で「ボール」という意味です。

名古屋では、簡略化・縮小化した「名古屋バージョン」のコートを使っています。

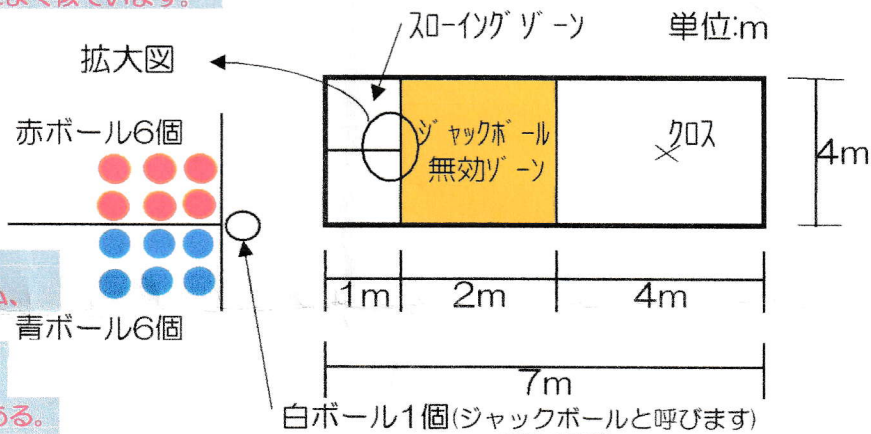
※正式なコートは幅6m×長さ12.5mです。

名古屋バージョンのコート (幅4m×長さ7m)

バトミントン6.1m×13.4mによく似ています。

※ボールは275g (前後12gまでは可) 革製で、中にはプラスチックピースが入っています。

ボールは天然皮革や合成皮革があり、硬さもソフト、ミディアム、ミックスなどがある。デンマーク、パキスタン、韓国、ポルトガルなどが製造 3万円から8万円などで20万円もある。



1.競技は、幅4m×長さ7mのコートで競います。

2.選手は幅2m×長さ1mの赤・青のスローイングゾーン内で投球します。

赤・青6球を投げてゲームは終了しますが、これをエンドと言います。

【競技方法】

通常は2エンドで1試合となります。エンド毎に先攻と後攻を入替ますが場所は交代しません。

どれだけ多くの球を目標の白い球(ジャックボール)に近づけられるかを競います。

チーム戦(1チーム3人で合計6人がプレー)は一人2球でチーム毎に6球投げます。

1.先攻(赤)

①ジャックボール(白)を投げる。

もし、ジャックボール無効ゾーンに投げた場合は、相手側が投げます。

②持ち球(赤)を1個投げる。

2.後攻(青)

①持ち球(青)を投げる。

以後、ジャックボール(白)に遠い方が持ち球を投げて行きます。

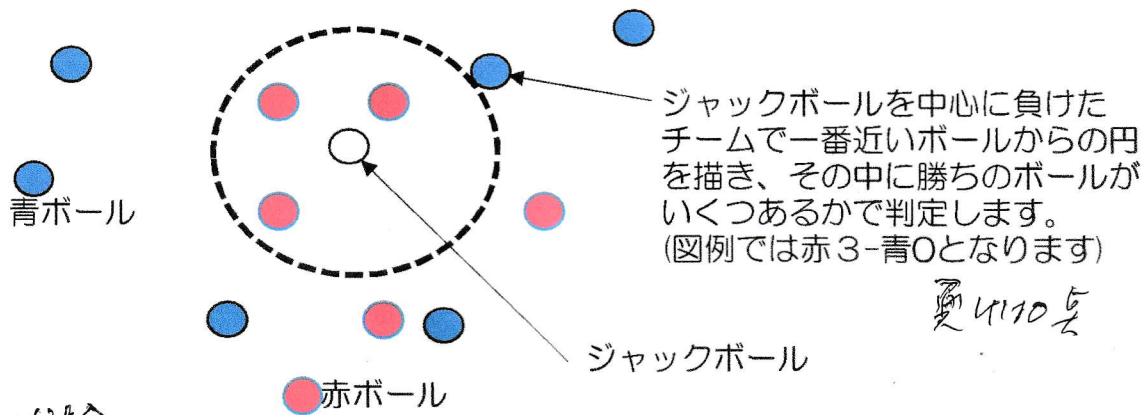
赤または青のボールが残った場合には、無くなるまで続けて投げます。

3.ボールをジャックボールや相手ボールにぶつけて移動させることで、自分のチームの形勢を有利にすることもできます。

4.ジャックボールがコートから出た場合は、クロス(×)の位置へもって行きます。

【採点方法】

赤・青6球全て投げ終わった時、ジャックボール(白)を中心に負けたボールの内側に、いくつ勝ちチームのボールがあるかで点数が決まります。



2エンドで試合

ジャックボールからの距離が目視で判断できない時は、キャリパーやスケールで測ります。

最終的な勝ちチームは、勝ちエンドの多い方です。

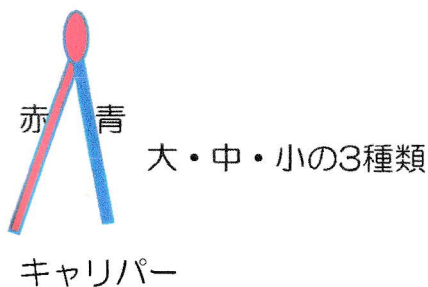
勝ちエンドが同数の場合は、総得点→最高得点の順で勝敗を決めます。

2エンド共引き分けの時は、両チーム代表者がジャックボールに1投球して近い方が勝ち

1投球して近い方が勝ち
2投球して近い方が勝ち
1投球して近い方が勝ち
2投球して近い方が勝ち
3投球して近い方が勝ち
4投球して近い方が勝ち
5投球して近い方が勝ち
6投球して近い方が勝ち

【使用する用具など】

1. ボール(白1球、赤6球、青6球)
2. スケール(測定用3m、コート作成用5m・10m)
3. キャリパー(短距離用の測定具)3種類
4. パドル(審判用に赤と青の色が塗られている、手鏡に似た用具)
5. 養生テープ(コート作成用)1コートで2巻(1巻25m)
6. 掲示板(成績表を記入します)
7. チーム名を記載した名札(首から吊るしてAとかBと記載した名札)
8. 消毒液及び除菌シート



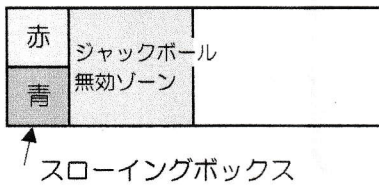
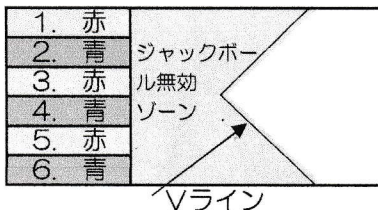
【補足説明】

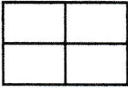
1. ボールは革製のため、バウンドは少しです。
競技が始める前に左右に分かれて、投げ合って体験をすると良いでしょう。
2. ジャックボール無効ゾーンは、白球のみ適用されます。
赤球、青球が無効ゾーンに入っても、そのまま競技を続行します。
3. ジャックボールとの距離が同じの場合は、後から打ったチームが再び打ちます。
4. スローイングゾーンは赤と青に二分されており、それぞれのゾーンから超えてはいけません。また、ラインを踏むとファウル(無効球)になります。
5. チーム内の投球順は1球ずつ決めた順番を守って下さい。

後から打つチームが再び打つ

名古屋ルールと公式ルールの主な違い

2023.08 CBH 二宮

区 分	名古屋ルール (市内の広めたいなどの取決め)	公式ルール (日本ボッチャ協会が制定)
①コートの寸法	4m×7m	6m×12.5m
②スローイングボックスとジャックボール無効ゾーン		 <ul style="list-style-type: none"> • 個人戦は3番と4番を使う • ペア戦は2番赤、3番青、4番赤 5番青を使う
③テープ幅	<ul style="list-style-type: none"> • 全ての線は5cm又は2.5cm幅の養生テープ 	<ul style="list-style-type: none"> • 外枠、スローイングライン、Vラインは4～7cm幅のテープ • スローイングボックスの仕切り線は1.9cm～2.6cm幅のテープ
④使用する用具	<ul style="list-style-type: none"> • ボール (白1、赤6、青6) • バトル (指示板) • キャリパー • メジャー 	<ul style="list-style-type: none"> • ボール (白1、赤6、青6) • バトル (指示板) • キャリパー • メジャー • タイマー (時計2) • ランプ (勾配具) など
⑤選手の区分	<ul style="list-style-type: none"> • 特に無し 	<ul style="list-style-type: none"> • 障害のレベルによってBC1～BC4の4区分
⑥先攻の決め方	<ul style="list-style-type: none"> • ジャンケンで決める (1)勝った方が先攻 (2)勝った方が先攻・後攻を決める 	<ul style="list-style-type: none"> • コイントスで決める
⑦投球順序	<ul style="list-style-type: none"> • 決めた順番で一人1球ずつ順番に投球する 	<ul style="list-style-type: none"> • チームの中なら順不同で、続けて投球してもよい
⑧投球の時間制限	<ul style="list-style-type: none"> • 特に無し 	<ul style="list-style-type: none"> • 選手の区分 (BC1～BC4) と個人戦、ペア戦、チーム戦により4分～7分の制限がある

区 分	名古屋ルール (市内の広めたいなどの取決め)	公式ルール (日本ボッチャ協会が制定)
⑨ターゲットボックス (クロス)	× ^{しゃうかすい} ^{まてはしにこたひ} ^と	 35cm四方を4区画 にして表示する
⑩試合数	・通常は2エンドで1試合	・個人戦・ペア戦は4エンドで1試合、チーム戦は6エンドで1試合
⑪反則行為	<ul style="list-style-type: none"> ・ファウルのみ^{おしりす}に罰則を科す ・<u>ラインを踏む</u> ^{没収} ・審判の指示前に投球するなど 	・反則のレベルにより、色々な罰則が科せられる
⑫罰則の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・リトラクション (コートからボールを取り除く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リトラクション ・1球のペナルティ (エンド終了時にターゲットボックスへ1球投球する権利) ・イエローカード など
⑬審判	・通常は主審と副審の2名、主審のみの場合もある	・審判、線審、時計、記録の4名で実施
⑭審判資格	<ul style="list-style-type: none"> ・特に無し 但し、あいちボッチャ協会と名古屋市障害者スポーツセンターでは「A級審判員」「審判員」を認定し、登録している 	<ul style="list-style-type: none"> ・有り(4区分) 日本ボッチャ協会公認審判員規程でA級・B級・C級・D級が認定されている 例えば、国際試合はA級でしか審判できない